

# 令和4年度 財政状況資料集

## 総括表（市町村）

都道府県名	埼玉県		市町村類型	施行時特例市	指定団体等の指定状況		区分		令和4年度(千円)	令和3年度(千円)	区分		令和4年度(千円・%)	令和3年度(千円・%)	
					財政健全化等	×	歳入総額	128,036,480	127,659,838	実収支比率	15.9	11.9			
市町村名	所沢市		地方交付税種地	2-10	財源超過	×	歳出総額	116,895,054	118,826,140	経常収支比率	92.7	90.0			
					首都	○	歳入歳出差引	11,141,426	8,833,698	(※1)	(94.4)	(94.3)			
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	1,152,812	1,194,405	標準財政規模	62,801,138	64,202,901			
					中部	×	実収支	9,988,614	7,639,293	財政力指数	0.95	0.96			
人口	令和2年国調(人)	342,464	産業構造(※5)		近畿	×	単年度収支	2,349,321	2,236,876	公債費負担比率	8.9	9.5			
	平成27年国調(人)	340,386			中部	×	積立金	3,635,628	3,588,839	健全化判断比率					
	増減率(%)	0.6			山振	×	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-			
住民基本台帳人口(※7)	令和05.01.01(人)	344,070	第1次	令和2年国調	1,793	平成27年国調	2,023	低開発	×	積立金取崩し額	4,423,538	1,699,374	連結実質赤字比率	-	-
	うち日本人(人)	337,574							指数表選定	○	実質単年度収支	1,561,411	4,126,341	実質公債費比率	4.7
	令和04.01.01(人)	343,637	第2次		1.2		1.4			基準財政収入額	46,108,595	44,256,930	資金不足比率(※4)		
	うち日本人(人)	337,573				26,563		29,386			基準財政需要額	48,880,451	47,688,502		
	増減率(%)	0.1				18.2		20.1			標準税収入額等	58,875,063	56,516,699		
	うち日本人(%)	0.0	第3次			117,796		114,775			経常経費充当一般財源等	61,154,522	60,367,838		
	面積(km <sup>2</sup> )	72.11				80.6		78.5			歳入一般財源等	87,456,854	81,350,205		
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	4,749														
世帯数(世帯)	152,652														
職員の状況(※8)															
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	62,882,238	65,961,115				
	市区町村長	1	10,290		一般職員	1,805	5,646,040	3,128	うち公的資金	38,611,000	41,031,718				
	副市区町村長	2	8,760		うち消防職員	-	-	-	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	32,459,351	33,279,215				
	教育長	1	7,810		うち技能労務職員	149	522,841	3,509	債務負担行為額(支出予定額)	61,884,492	64,948,264				
	議会議長	1	6,600		教育公務員	40	150,944	3,774	収益事業収入	-	-				
	議会副議長	1	5,800		臨時職員	-	-	-	土地開発基金現在高	100,000	100,000				
	議会議員	35	5,600		合計	1,845	5,796,984	3,142	財政調整基金	7,403,194	8,191,104				
					ラスパレス指数				101.3	積立金現在高	-	-			
										減債基金					
										その他特定目的基金	6,752,017	5,632,646			
一般会計等の一覧		事業会計の一覧		公営企業(法適)の一覧		公営企業(法非適)の一覧		関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧					
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)			
(1)	一般会計	(4)	所沢市交通災害共済特別会計	(8)	所沢市水道事業会計			(11)	埼玉西部消防組合	(12)	所沢市土地開発公社	○			
(2)	所沢市所沢都市計画事業狭山ヶ丘土地区画整理特別会計	(5)	所沢市国民健康保険特別会計	(9)	所沢市下水道事業会計					(13)	ワルツ所沢	○			
(3)	所沢市所沢都市計画事業所沢駅西口土地区画整理特別会計	(6)	所沢市介護保険特別会計	(10)	所沢市病院事業会計					(14)	所沢市公共施設管理公社	○			
		(7)	所沢市後期高齢者医療特別会計							(15)	所沢市文化振興事業団	○			
										(16)	埼玉西部食品流通センター	○			
										(17)	ところざわ未来電力	○			

(注釈) ※1: 経常収支比率の( )内の数値は、「減収補償債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。  
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(\*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。  
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※8: 職員の状況については、令和4年度地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)					地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	54,972,793	42.9	50,975,436	78.7	普通税	50,161,406	91.2	523,951	
地方譲与税	613,662	0.5	613,662	0.9	法定普通税	50,161,406	91.2	523,951	
利子割交付金	22,014	0.0	22,014	0.0	市町村民税	26,223,259	47.7	523,951	
配当割交付金	316,968	0.2	316,968	0.5	個人均等割	632,221	1.2	-	
株式等譲渡所得割交付金	246,759	0.2	246,759	0.4	所得割	22,770,468	41.4	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	863,954	1.6	-	
地方消費税交付金	7,727,613	6.0	7,727,613	11.9	法人税割	1,956,616	3.6	523,951	
ゴルフ場利用税交付金	23,831	0.0	23,831	0.0	固定資産税	21,290,862	38.7	-	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	21,141,760	38.5	-	
自動車取得税交付金	1,541	0.0	1,541	0.0	軽自動車税	556,917	1.0	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	2,090,368	3.8	-	
自動車税環境性能割交付金	101,762	0.1	101,762	0.2	鉱産税	-	-	-	
法人事業税交付金	510,595	0.4	510,595	0.8	特別土地保有税	-	-	-	
地方特例交付金等	407,550	0.3	407,550	0.6	法定外普通税	-	-	-	
個人住民税減収補填特例交付金	404,930	0.3	404,930	0.6	目的税	4,811,387	8.8	-	
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	2,620	0.0	2,620	0.0	法定目的税	4,811,387	8.8	-	
地方交付税	3,048,138	2.4	2,771,856	4.3	入湯税	-	-	-	
普通交付税	2,771,856	2.2	2,771,856	4.3	事業所税	814,031	1.5	-	
特別交付税	276,213	0.2	-	-	都市計画税	3,997,356	7.3	-	
震災復興特別交付税	69	0.0	-	-	水利地益税等	-	-	-	
(一般財源計)	67,993,226	53.1	63,719,587	98.3	法定外目的税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	33,586	0.0	33,586	0.1	旧法による税	-	-	-	
分担金・負担金	433,105	0.3	-	-	合計	54,972,793	100.0	523,951	
使用料	1,046,083	0.8	245,866	0.4					
手数料	501,490	0.4	1,298	0.0					
国庫支出金	28,636,242	22.4	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	454,783	0.4	454,783	0.7					
都道府県支出金	7,684,275	6.0	-	-					
財産収入	188,487	0.1	142,049	0.2					
寄附金	23,541	0.0	-	-					
繰入金	6,060,677	4.7	-	-					
繰越金	8,780,936	6.9	-	-					
諸収入	1,646,730	1.3	211,583	0.3					
地方債	4,553,319	3.6	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	1,154,219	0.9	-	-					
歳入合計	128,036,480	100.0	64,808,752	100.0					

歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	556,999	0.5	-	556,999	
総務費	14,445,196	12.4	718,651	12,812,499	
民生費	54,851,465	46.9	284,481	26,655,333	
衛生費	12,235,176	10.5	797,424	7,951,780	
労働費	129,677	0.1	-	129,347	
農林水産業費	263,324	0.2	-	240,795	
商工費	732,847	0.6	62,402	657,482	
土木費	10,383,364	8.9	4,399,577	7,045,927	
消防費	4,105,710	3.5	143,088	3,976,453	
教育費	11,431,492	9.8	1,874,086	8,529,016	
災害復旧費	-	-	-	-	
公債費	7,759,804	6.6	-	7,759,797	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	116,895,054	100.0	8,279,709	76,315,428	

性質別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	58,907,964	50.4	33,250,878	33,009,088	50.0
人件費	17,837,673	15.3	16,617,402	16,543,199	25.1
うち職員給	11,119,081	9.5	10,226,092	-	-
扶助費	33,310,487	28.5	8,873,679	8,706,092	13.2
公債費	7,759,804	6.6	7,759,797	7,759,797	11.8
元利償還金	7,759,804	6.6	7,759,797	7,759,797	11.8
うち元金	7,632,196	6.5	7,632,189	7,632,189	11.6
うち利子	127,608	0.1	127,608	127,608	0.2
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	49,707,381	42.5	40,450,163	28,145,434	42.7
物件費	19,246,496	16.5	13,545,775	11,497,340	17.4
維持補修費	1,290,051	1.1	1,230,321	1,228,126	1.9
補助費等	12,711,288	10.9	10,948,806	6,971,753	10.6
うち一部事務組合負担金	3,825,083	3.3	3,825,083	3,767,101	5.7
繰出金	10,305,773	8.8	8,624,196	8,448,215	12.8
積立金	6,153,773	5.3	6,101,065	-	-
投資・出資金・貸付金	-	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	8,279,709	7.1	2,614,387	-	-
うち人件費	211,209	0.2	157,561	-	-
普通建設事業費	8,279,709	7.1	2,614,387	-	-
うち補助	1,420,631	1.2	71,435	-	-
うち単独	6,787,052	5.8	2,470,926	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	116,895,054	100.0	76,315,428	-	-

(注釈)  
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、  
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和4年度 埼玉県所沢市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	126,723	116,439	10,284	9,996	6,061	59,917	
2 所沢市所沢都市計画事業東山ヶ丘地区開発特別会計	919	199	721	0	210	455	
3 所沢市所沢都市計画事業所沢駅西口上地区開発特別会計	1,108	963	145	1	263	2,511	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							

### (3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

令和4年度

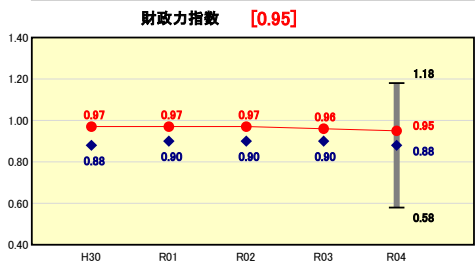
埼玉県所沢市

人口	344,070	人(R5.1.1現在)	-	%
うち日本人	337,574	人(R5.1.1現在)	-	%
面積	72.11	km <sup>2</sup>		
歳入総額	128,036,480	千円		
歳出総額	116,986,054	千円		
実収支	9,988,614	千円		
標準財政規模	62,801,138	千円		
地方債現在高	62,882,238	千円		

● 当該団体値  
◆ 類似団体内平均値  
T 類似団体内の最大値及び最小値

※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実収支費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。  
※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。  
※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。  
※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレズ指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

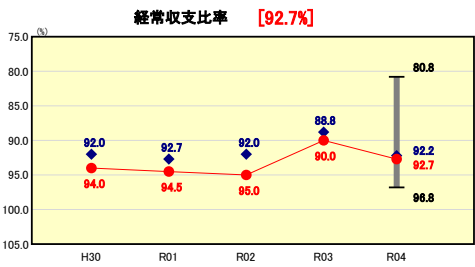
#### 財政力



**財政力指数の分析**

令和4年度の財政力指数は0.95で、前年度に引き続き0.01ポイント下降した。平成22年度に8年ぶりに普通交付税交付団体となり、平成24年度に1.0を割ってからは、ほぼ横ばいで推移しながらも、類似団体平均を上回る数字を維持している。しかし、今後は生産年齢人口の減少や社会保障経費の増加等により財政の圧迫が予想されることから、引き続き財源確保の取り組みを進めるとともに経常経費の抑制を図り、自然災害のような不測の事態にも対応できるような財政基盤の強化を図っていく。

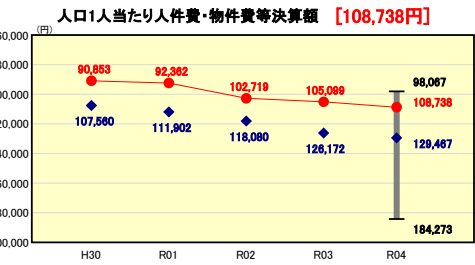
#### 財政構造の弾力性



**経常収支比率の分析**

経常収支比率は前年度から2.7ポイント増加した。母分である経常一般財源(歳入)については、臨時財政対策債(▲1,934,642千円)、地方交付税(▲659,716千円)などが減となり、大きく増えたものがなかったことから、全体で減(▲1,115,832千円)となった。分子である経常経費(歳出)については、公債費の増(+38,572千円)のほか、扶助費が障害者支援費の増(+289,090千円)、児童福祉運営費の増(+228,871千円)などの影響により増(+632,934千円)となった。また、人件費も会計年度任用職員(パート)報酬の増(+49,816千円)、委員報酬の増(+45,534千円)、時間外勤務手当の増(+43,707千円)などの影響により増(+28,794千円)となった。一方、物件費は、保育運営費の減(▲194,718千円)、所沢ブランド推進事業費の減(▲113,305千円)などの影響により減(▲261,021千円)となった。その結果、経常一般財源が前年度比で約11億円減少、経常経費が前年度比で約7.9億円増となったことから、経常収支比率は令和3年度より2.7ポイント増、92.7%となった。

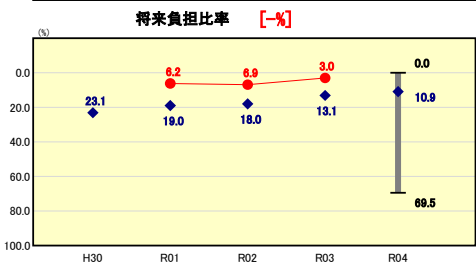
#### 人件費・物件費等の状況



**人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析**

前年度から3,639円の増となった。人件費については、一般職給の減(▲36,619千円)などの減要因があったものの、参議院議員選挙執行費の増(+23,879千円)や時間外勤務手当の増(+45,261千円)などにより全体として増(+9,868千円)となった。また、物件費についても、子ども・子育て支援対策推進費(子育て家庭応援事業、若者応援事業)の増(+1,009,019千円)などの影響により増(+1,103,183千円)となった。なお、人口については大きな変動はなく、これらの要因により前年度と比較して増となった。

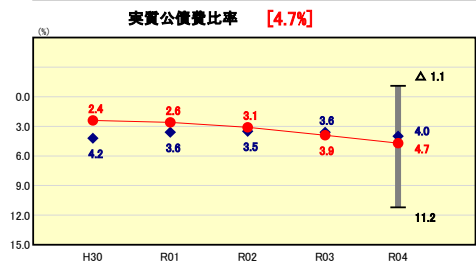
#### 将来負担の状況



**将来負担比率の分析**

将来負担額については、地方債現在高が前年度より約31億円の大幅減となり、その他の公営企業債等繰入見込額や退職手当負担見込額などの項目もすべて減少したことなどから、全体として42億円減少した。充当可能財源については、充当可能基金は約5億円の増となったが、基準財政需要額繰入見込額などが減となり、充当可能財源の合計が前年度と比較して約15億円減少した。以上により充当可能財源が将来負担額より大きくなり、マイナス値となった。今後も、世代間負担の公平性とのバランスにも考慮し、将来を見据えて適切に、地方債の借入れ等による財源調達を行うとともに、限られた財源の有効活用を図り、引き続き適正な財政運営に努めていく。

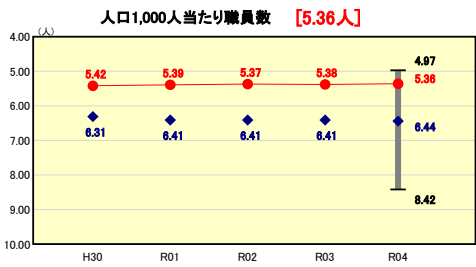
#### 公債費負担の状況



**実質公債費比率の分析**

令和4年度は、公営企業の地方債償還の財源に充てる繰入金が増加し、それらに充てられる基準財政需要額も減少したため、単年度の比率では前年度の4.89を上回る5.50となった。3年平均では令和元年度の3.02が算定対象から外れたことから平均値は前年を0.8ポイント上回る数値となり、全国・県平均との比較では低い水準を維持しているが、類似団体数値を上回る結果となった。今後も元利償還金の増加も見込まれるため、経費節減や借入れの適正化に努め、適正な比率水準の維持に努める。

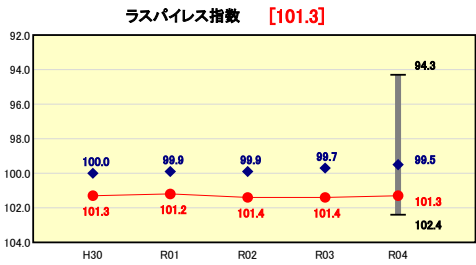
#### 定員管理の状況



**人口1,000人当たり職員数の分析**

各業務の最適な担い手による実施により、類似団体内平均値を下回っている。今後も、第2次所沢市定員管理計画の方針(現状の職員規模を基準に、業務ごとのサービス提供体制を踏まえたうえで、業務量と職種ごとの人員数の適正なバランスを維持する)に則り、全体最適を旨とし、流動的かつ機動的に定数の配分・配置を行うこととする。

#### 給与水準 (国との比較)



**ラスパイレズ指数の分析**

職員の給与については、民間給与との均衡を基本とする人事院勧告を尊重し、国家公務員に準じた給与改定を行っている。給与の総合的見直しの実施により給与水準の適正化を図っており、今後も人事院勧告に準拠していくことを基本として、引き続き給与水準の適正化に努める。

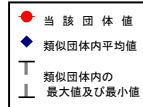
# (4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

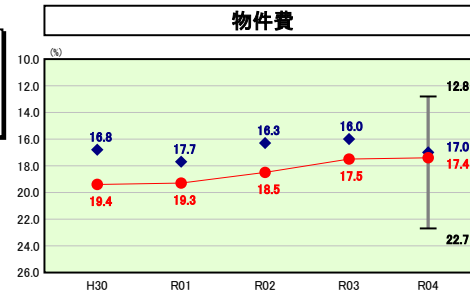
埼玉県所沢市

## 経常収支比率の分析

人口	344,070	人(R6.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	337,574	人(R6.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	72.11	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	4.7	%
歳入総額	128,036,480	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	116,895,054	千円	市町村類型	H30 特例市 R01 特例市 R02 特例市	
実質収支	9,988,614	千円	(年度毎)	R03 特例市 R04 特例市	
標準財政規模	62,801,138	千円			
地方債現在高	62,882,238	千円			



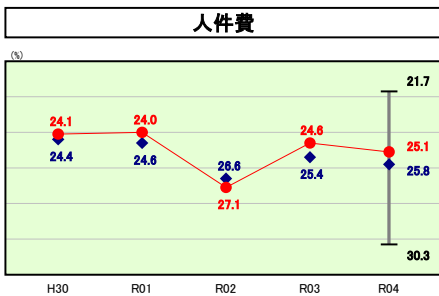
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 16/23 全国平均 14.9 埼玉県平均 18.6

#### 物件費の分析欄

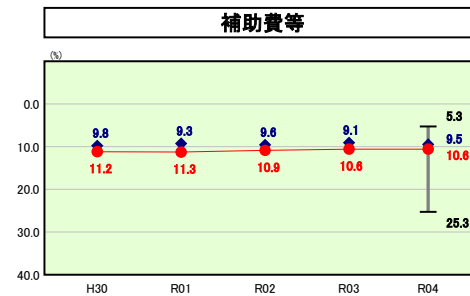
前年度より0.1ポイント減となったものの、類似団体や全国平均を上回っている。物件費にかかる一般財源充当歳出(分子)が、東部クリーンセンター費の電気計装設備備料(59,908千円)の皆減などにより前年度比261,021千円の減となったため、経常一般財源等(分母)が同1,115,832千円の減となったものの、指標値としては0.1ポイントの減となった。物件費は今後も増加傾向を示す可能性があるが、事務事業の見直し等により経費節減に努める。



類似団体内順位 11/23 全国平均 25.9 埼玉県平均 25.6

#### 人件費の分析欄

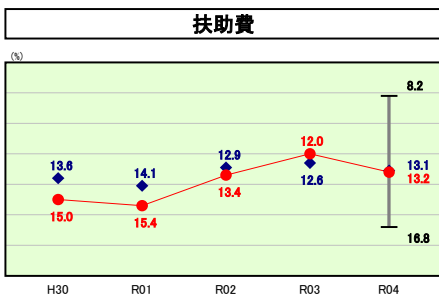
人件費にかかる一般財源充当歳出(分子)は前年度比で28,794千円の増、経常一般財源等(分母)は同1,115,832千円の減となり、指標値としては0.5ポイントの増となった。令和4年度の人件費については、時間外勤務手当の45,261千円の増などの要因により3年度と比較して9,868千円の増となった。今後も引き続き、適正な人員管理と事務事業の効率化に取り組み、負担の軽減を図っていく。



類似団体内順位 19/23 全国平均 10.5 埼玉県平均 9.8

#### 補助費等の分析欄

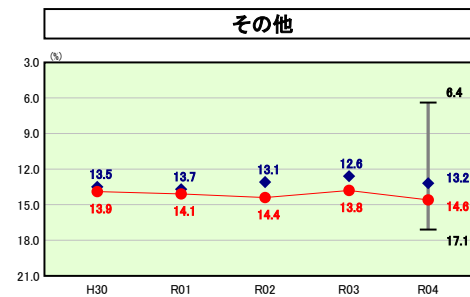
補助費等は、ここ数年横ばいで推移し、類似団体や全国・県平均を上回っている。当市は、埼玉西部消防組合負担金3,818,870千円等の影響で、比率として高い水準にある。令和4年度においては、補助費等にかかる一般財源充当歳出(分子)が前年度比126,732千円の減額となったものの、経常一般財源等(分母)も同1,115,832千円の減となったため、指標値は前年度と同ポイントとなった。今後も引き続き、補助金の交付額や制度の見直しなど、事業の見直しに取り組み、経費の節減を図っていく。



類似団体内順位 10/23 全国平均 12.5 埼玉県平均 13.3

#### 扶助費の分析欄

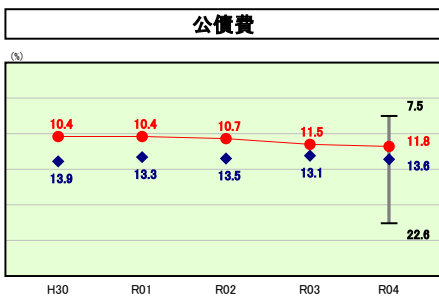
扶助費の決算総額は、子育て世帯等臨時特別給付金費の4,369,576千円の減、住民税非課税世帯等臨時特別給付金費の1,398,764千円減などの影響により前年度比で3,767,739千円の減となり、指標値としては1.2ポイントの増となった。保育需要への対応や、高齢化に伴う福祉サービスの拡大など、今後も扶助費への増加が見込まれるが、市単独事業の見直しなどを図り、扶助費の抑制に努めていく。



類似団体内順位 16/23 全国平均 12.4 埼玉県平均 11.6

#### その他の分析欄

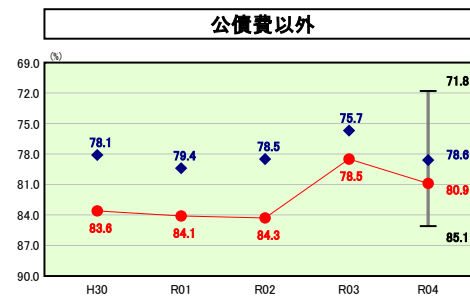
繰出金の経常収支比率が0.7ポイント増、また維持補修費の経常収支比率が0.3ポイントの増となり、全体では0.8ポイントの増となった。他会計への繰入金においては、独立採算性の観点で踏まえ、普通会計の負担額軽減に努めていく。



類似団体内順位 8/23 全国平均 16.0 埼玉県平均 14.1

#### 公債費の分析欄

所沢駅西口土地画整理事業債元金償還金の49,600千円の増などにより、公債費にかかる一般財源充当歳出は前年度比で20,924千円の増となり、指標値としては0.3ポイントの増となった。類似団体と比べて当市の値は低い水準を維持しているが、引き続き世代間負担の公平性に留意しながら、計画的な運用に努めていく。



類似団体内順位 16/23 全国平均 76.2 埼玉県平均 78.9

#### 公債費以外の分析欄

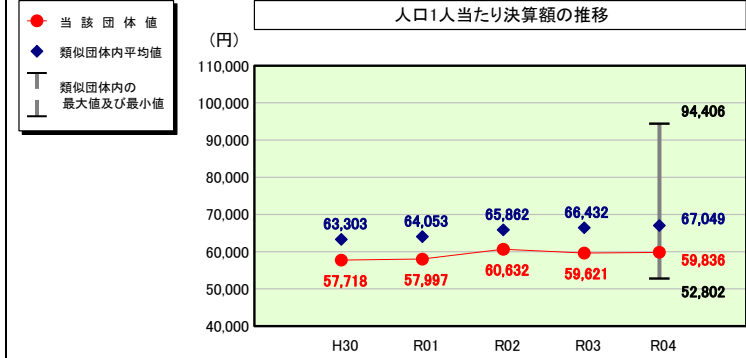
人件費や扶助費の増などにより前年度より2.4ポイント増となった。依然として類似団体や全国・県平均を上回っていることから、公債費以外の経常経費の削減とともに、新たな財源の獲得や事務事業の廃止を見据えた検討など、抜本的な見直しに努めていく。

# (4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和4年度

埼玉県所沢市

## 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



## 人件費及び人件費に準ずる費用

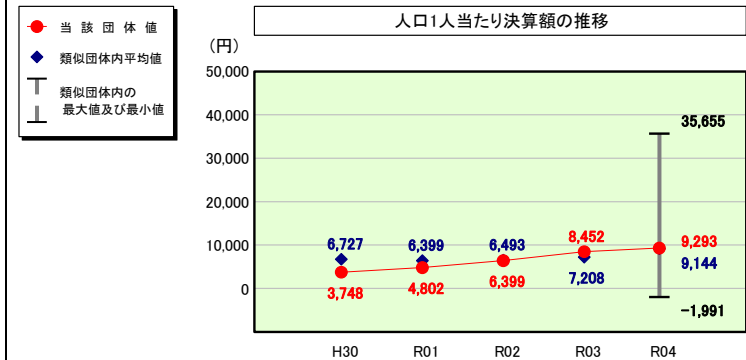
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	17,837,673	51,843	63,654	▲ 18.6
一部事務組合負担金(補助費等)	3,182,451	9,249	2,232	▲ 314.4
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	511,195	1,486	1,758	▲ 15.5
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	37	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	16,946	49	1,692	▲ 97.1
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	211,209	614	1,307	▲ 53.0
▲退職金	▲ 1,171,803	▲ 3,406	▲ 3,631	▲ 6.2
合計	20,587,671	59,836	67,049	▲ 10.8

## 参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	5.36	6.44	▲ 1.08
ラスバイレス指数	101.3	99.5	1.8

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

## 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

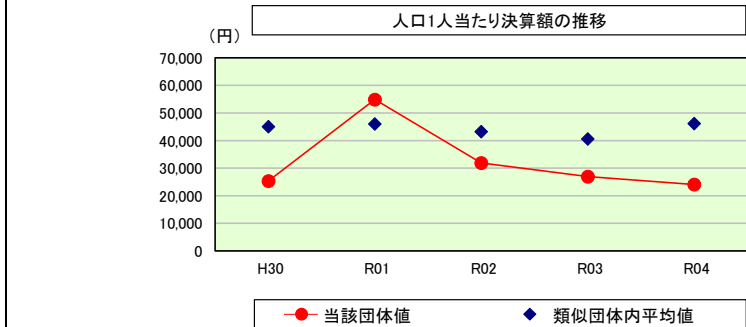


## 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	7,759,509	22,552	30,950	▲ 27.1
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	22	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,155,237	3,358	7,929	▲ 57.6
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	182,009	529	497	6.4
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	403,731	1,173	1,271	▲ 7.7
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く)	295	1	1	0.0
▲特定財源の額	▲ 1,608,247	▲ 4,674	▲ 7,248	▲ 35.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 4,694,959	▲ 13,645	▲ 24,279	▲ 43.8
合計	3,197,575	9,293	9,144	1.6

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

## (参考) 普通建設事業費の分析



## 普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H30	8,731,938	25,360	29.6	45,022	▲ 0.9	30.5
うち単独分	5,619,414	16,320	0.4	25,247	3.0	▲ 2.6
R01	18,895,551	54,892	116.5	46,035	2.3	114.2
うち単独分	12,701,519	36,898	126.1	25,158	▲ 0.4	126.5
R02	10,985,175	31,914	▲ 41.9	43,261	▲ 6.0	▲ 35.9
うち単独分	6,236,820	18,119	▲ 50.9	24,721	▲ 1.7	▲ 49.2
R03	9,263,992	26,959	▲ 15.5	40,626	▲ 6.1	▲ 9.4
うち単独分	6,991,971	20,347	▲ 12.3	24,279	▲ 1.8	▲ 14.1
R04	8,279,709	24,064	▲ 10.7	46,133	13.6	▲ 24.3
うち単独分	6,787,052	19,726	▲ 3.1	27,280	12.4	▲ 15.5
過去5年間平均	11,231,273	32,638	15.6	44,215	0.6	15.0
うち単独分	7,667,355	22,282	17.0	25,337	2.3	14.7

# (5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和4年度

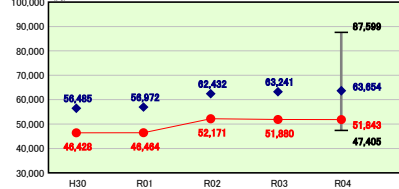
埼玉県所沢市

人口	344,070人(05.1.1現在)	実収赤字比率	-%
うち日本人	337,574人(05.1.1現在)	連結実収赤字比率	-%
世帯	72,111世帯	実収公債費比率	4.7%
歳入総額	128,036,480千円	将来負担比率	-%
歳出総額	116,895,054千円	市町村類型	H30 特別市 R01 特別市 R02 特別市 R03 特別市 R04 特別市
実収取支	9,988,614千円	(年度毎)	
標準財政規模	62,801,138千円		
地方債現在高	62,882,238千円		

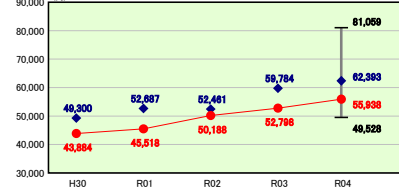


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

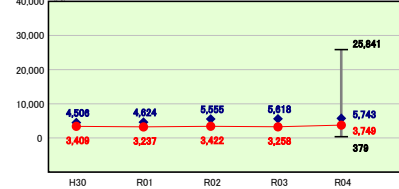
**人件費**  
 類似団体内順位 21/23 全国平均 80,523 埼玉県平均 63,082



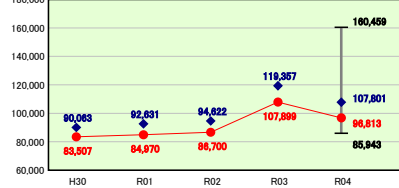
**物件費**  
 類似団体内順位 18/23 全国平均 77,184 埼玉県平均 63,601



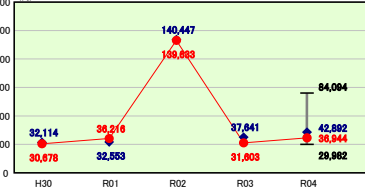
**維持補修費**  
 類似団体内順位 12/23 全国平均 6,283 埼玉県平均 3,774



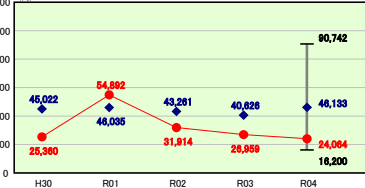
**扶助費**  
 類似団体内順位 19/23 全国平均 127,834 埼玉県平均 104,883



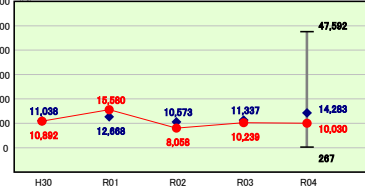
**補助費等**  
 類似団体内順位 11/23 全国平均 66,883 埼玉県平均 40,162



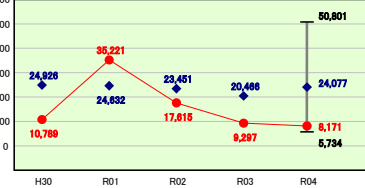
**普通建設事業費**  
 類似団体内順位 20/23 全国平均 66,878 埼玉県平均 38,742



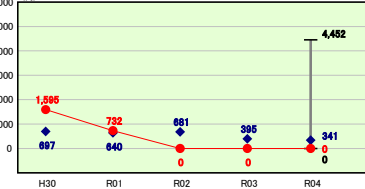
**普通建設事業費(うち新規整備)**  
 類似団体内順位 11/23 全国平均 13,819 埼玉県平均 8,333



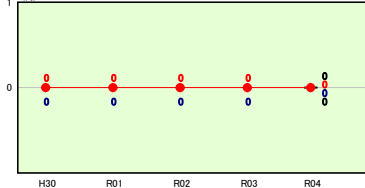
**普通建設事業費(うち更新整備)**  
 類似団体内順位 22/23 全国平均 32,789 埼玉県平均 20,898



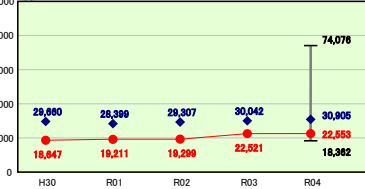
**災害復旧事業費**  
 類似団体内順位 10/23 全国平均 2,185 埼玉県平均 142



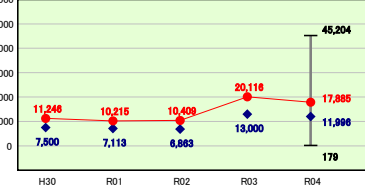
**失業対策事業費**  
 類似団体内順位 1/23 全国平均 0 埼玉県平均 0



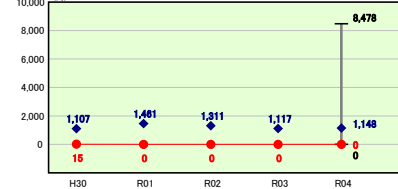
**公債費**  
 類似団体内順位 20/23 全国平均 43,946 埼玉県平均 31,128



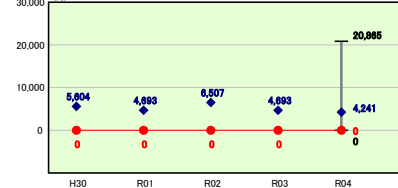
**積立金**  
 類似団体内順位 7/23 全国平均 21,455 埼玉県平均 14,489



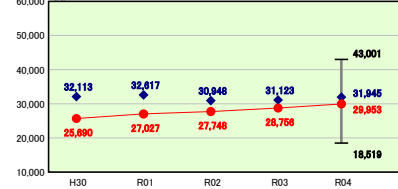
**投資及び出資金**  
 類似団体内順位 16/23 全国平均 2,040 埼玉県平均 547



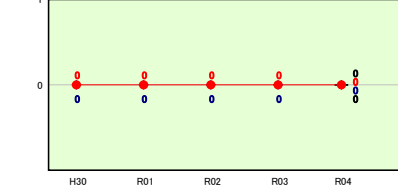
**貸付金**  
 類似団体内順位 21/23 全国平均 10,880 埼玉県平均 6,251



**繰出金**  
 類似団体内順位 17/23 全国平均 38,719 埼玉県平均 30,853



**前年度繰上充用金**  
 類似団体内順位 1/23 全国平均 2 埼玉県平均 0



**性質別歳出の分析**

積立金を除き、すべての項目で類似団体の平均値を下回る結果となった。  
 歳出決算総額は、住民一人当たり339,742円となっている。主な構成項目のひとつである物件費は、住民一人当たり55,938円となっており、類似団体の平均を下回っているものの平成30年度から令和4年度まで年々増加している状況となっている。  
 令和5年度についても、人件費や物価の高騰の影響によりさらに増加することが見込まれるところである。  
 また、公債費については住民一人当たり22,553円となっており、類似団体の平均を下回っているところであるが、こちらも平成30年度から令和4年度まで年々増加している状況となっており、今後も公共施設の老朽化に係る工事や大規模な普通建設事業が予定されていることから増加していくことが予想される。  
 当市は全体的に人口規模に対するコストは低水準となっているが、普通建設事業費のほか、扶助費や物件費、人件費なども今後増加が見込まれるため、事業費の精査や積極的な財源の確保に努め、引き続き健全な財政運営を行っていく。



# (6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

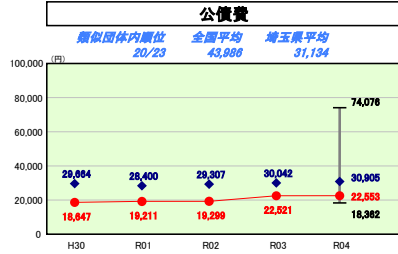
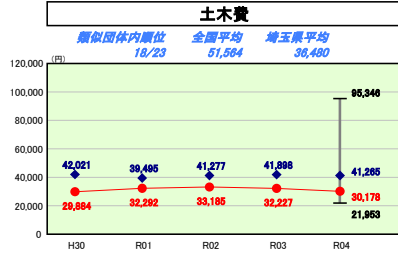
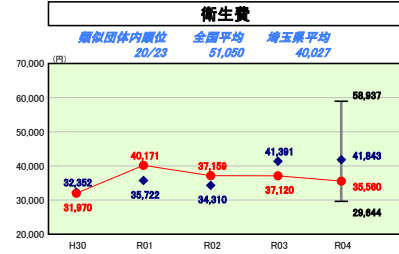
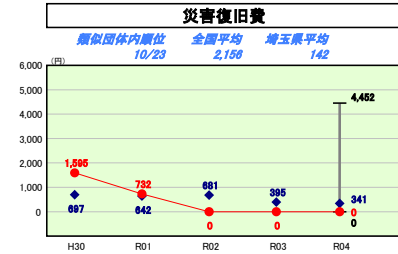
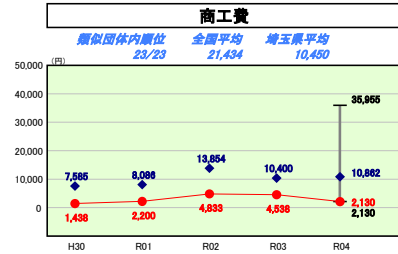
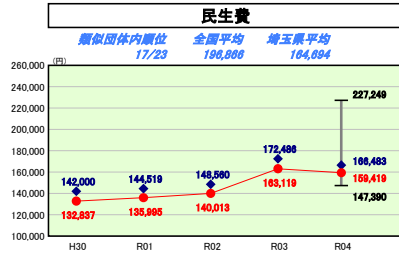
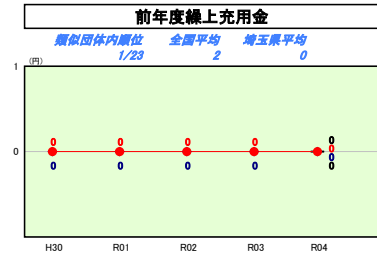
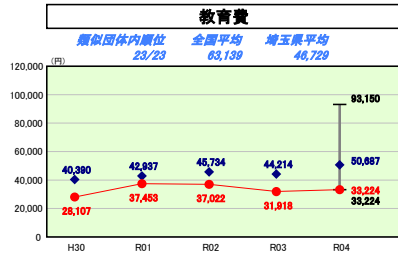
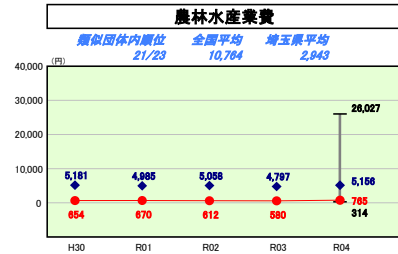
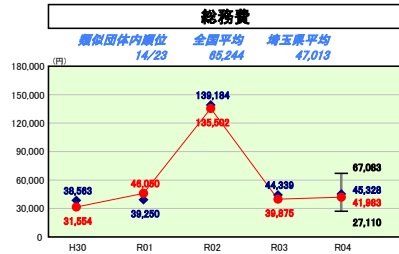
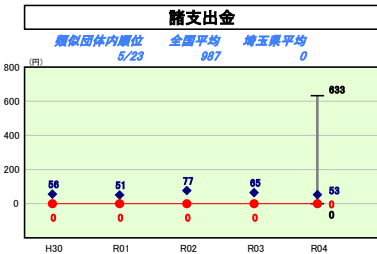
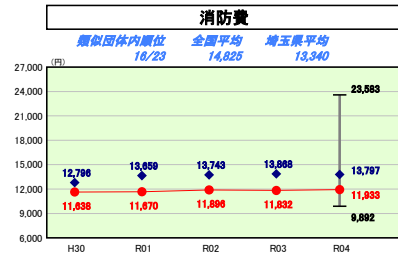
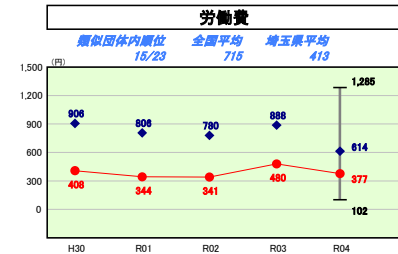
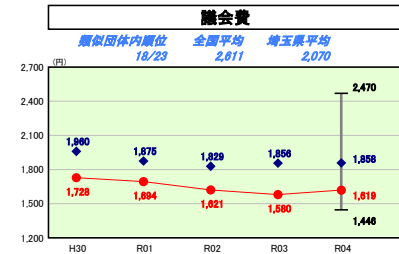
令和4年度

埼玉県所沢市

人口	344,070人(05.1.1現在)	実収赤字比率	-%
うち日本人	337,574人(05.1.1現在)	連結実収赤字比率	-%
歳入総額	72,111千円	実収公債費比率	4.7%
歳入総額	128,036,480千円	将来負担比率	-%
歳出総額	116,895,054千円	市町村類型	H30 特別市 R01 特別市 R02 特別市
実収取支	9,988,614千円	(年度毎)	R03 特別市 R04 特別市
標準財政規模	62,801,138千円		
地方債現在高	62,882,238千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と云う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



#### 目的別歳出の分析

全ての項目において、類似団体平均を下回ったものの、議会費、総務費、農林水産業費、消防費、教育費、公債費については前年度と比較して微増となっている。それぞれの主な増要因としては、議会費については、旅費6,689千円の増、総務費については、市庁舎空調・給水設備改修設計業務委託料125,400千円の増、農林水産業費については、農業者支援事業補助金43,677千円の増、消防費については、消防団詰所の建設工事費95,920千円の増、教育費については、小中学校給食費保護者負担軽減補助金359,265千円の増、公債費については、元利償還金20,924千円の増となっている。一方で、民生費、衛生費、労働費、商工費、土木費は微減に留まっており、それぞれの主な減要因として、民生費については、子育て世帯等臨時特別給付金費4,369,576千円の減、衛生費については、新型コロナウイルスワクチン接種事業費625,706千円の減、労働費については、公共施設屋根改修工事費40,909千円の減、商工費については、所沢市観光情報・物産館建設工事費535,230千円の減、土木費については、区画整理事業における仮換地指定に伴う物件移転等償料280,404千円の減となっている。

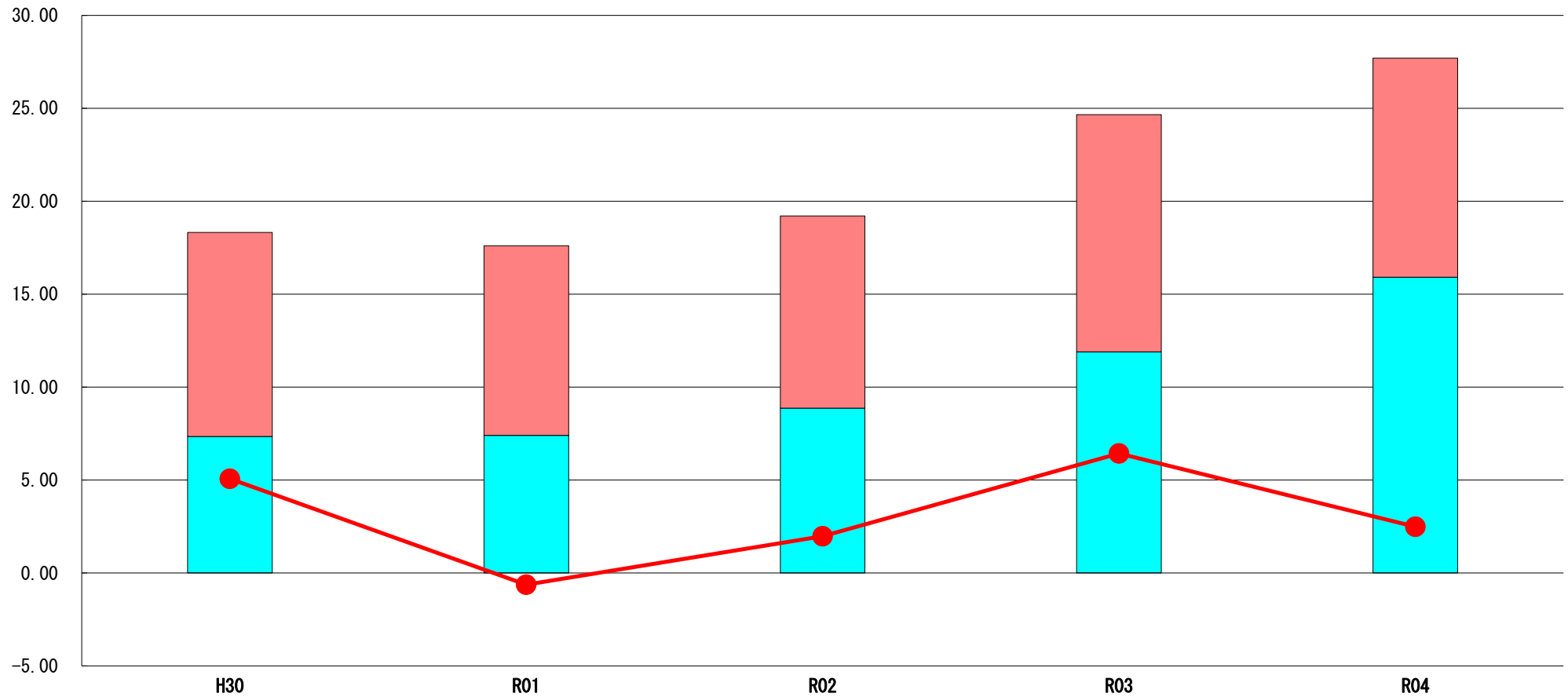


# (7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




令和4年度

埼玉県所沢市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H30	R01	R02	R03	R04
 財政調整基金残高		10.98	10.21	10.34	12.76	11.79
 実質収支額		7.34	7.40	8.87	11.90	15.91
 実質単年度収支		5.07	▲ 0.63	1.98	6.43	2.49

### 分析欄

財政調整基金は、令和4年度は取崩額が積立額を上回ったため、前年度比で残高788百万円減となり、標準財政規模比も0.97ポイント減となった。

実質収支額は、歳入・歳出ともに子育て世帯等臨時特別給付金の減により前年比減となったが、財政調整基金繰入金が増等による歳入が伸びたため2,349百万円の増となり、実質収支比率としては4.01ポイントの増となった。

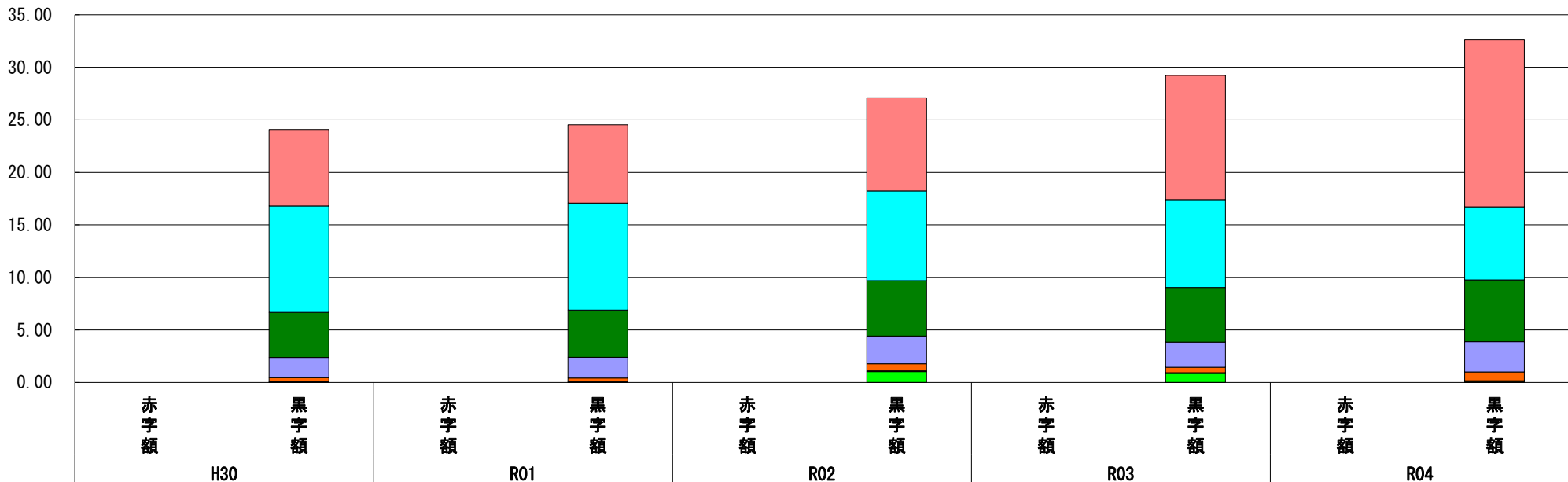
実質単年度収支額は、令和4年度は基金取崩額の増等により前年度比2,565百万円の減となり、標準財政規模に占める割合では3.94ポイントの減となった。

### (8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和4年度

埼玉県所沢市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H30	R01	R02	R03	R04
一般会計		7.28	7.45	8.87	11.81	15.91
所沢市水道事業会計		10.12	10.18	8.54	8.38	6.95
所沢市下水道事業会計		4.30	4.50	5.26	5.20	5.89
所沢市介護保険特別会計		1.93	1.96	2.65	2.39	2.87
所沢市病院事業会計		0.38	0.35	0.67	0.51	0.83
所沢市後期高齢者医療特別会計		0.02	0.02	0.03	0.03	0.08
所沢市交通災害共済特別会計		0.04	0.04	0.04	0.05	0.06
所沢市国民健康保険特別会計		0.01	0.02	1.03	0.85	0.03
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

#### 分析欄

全ての会計において黒字を計上した。  
 連結黒字額全体のうち、一般会計と水道事業会計の余剰額の合計が14,366百万円となり、連結黒字全体の70.1%を占めている。前年度と比較して黒字額は一般会計が2,408百万円増、下水道事業会計が358百万円増等により、連結黒字額総額では前年度を1,719百万円上回る20,507百万円となった。

主な会計の実質収支額は以下のとおり。

- 一般会計：9,996百万円
- 水道事業会計：4,370百万円
- 下水道事業会計：3,703百万円
- 病院事業会計：522百万円
- 介護保険特別会計：1,803百万円

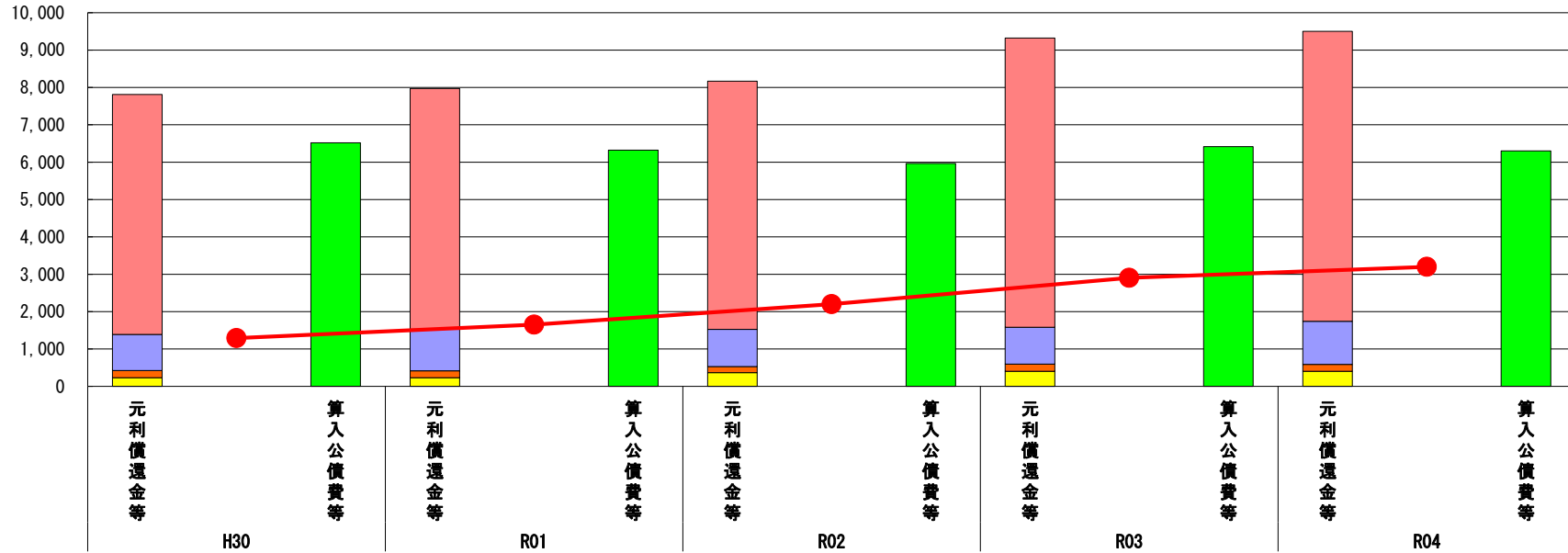
※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

埼玉県所沢市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
元利償還金等 (A)	元利償還金		6,421	6,445	6,643	7,739	7,760
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		965	1,111	995	988	1,155
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		195	186	164	192	182
	債務負担行為に基づく支出額		230	230	365	402	404
	一時借入金の利子		-	0	0	0	0
算入公債費等 (B)	算入公債費等		6,520	6,321	5,965	6,416	6,303
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		1,291	1,651	2,202	2,905	3,198

分析欄

令和4年度は、公営企業の地方債償還の財源に充てる繰出金が1.7億円増加したことなどにより、実質的な公債費が1.8億円増加した。  
一方、道路橋りょう費、地域振興費（人口）等の各事業に係る公債費分として見込まれた基準財政需要額が1.5億円減少したことなどにより、公債費等から控除される財源として1.1億円減少した。  
こうしたことから、実質公債費比率の分子としては前年度より2.9億円の増となった。

※1 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

※2 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D)/(E))

(参考)

(百万円)

減債基金積立状況等 (注)		年度	H30	R01	R02	R03	R04
減債基金積立状況等 (注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額 (C)						
	前年度末減債基金残高 (D)						
	前年度末減債基金積立相当額 (E)						

分析欄

(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。

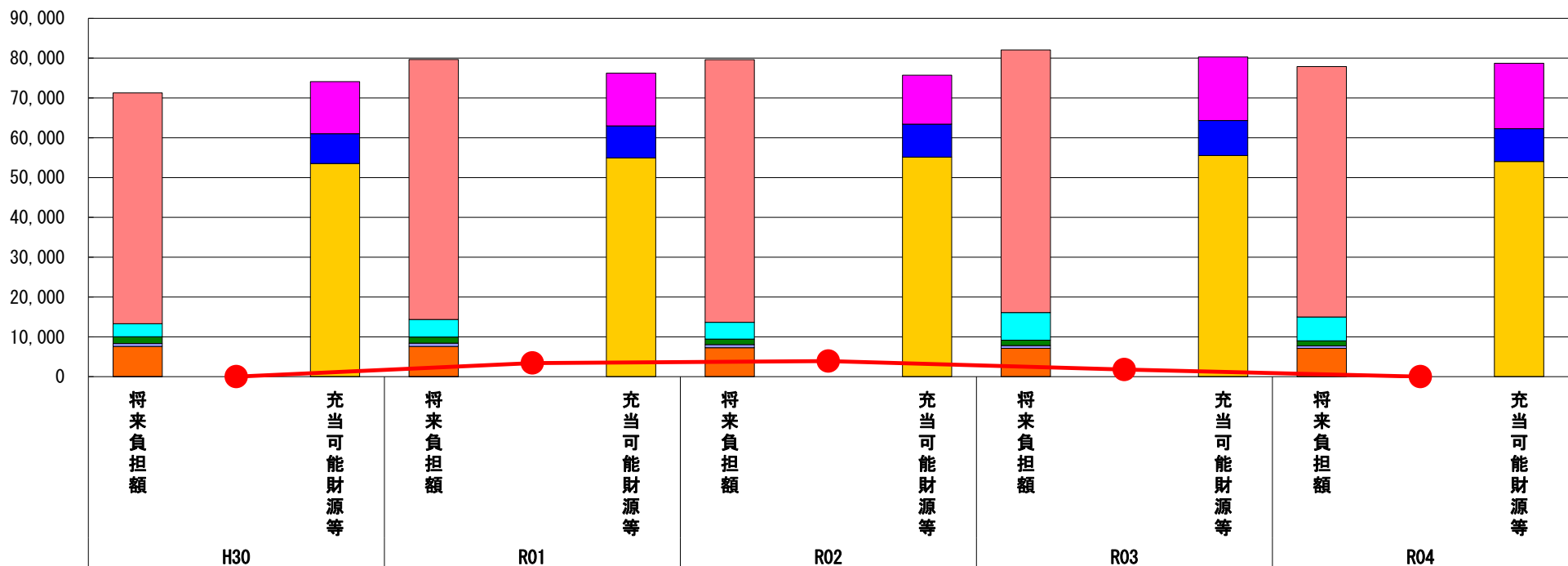
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

# (10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和4年度

埼玉県所沢市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H30	R01	R02	R03	R04
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		57,966	65,282	65,970	65,961	62,882
	債務負担行為に基づく支出予定額		3,282	4,425	4,208	6,924	6,002
	公営企業債等繰入見込額		1,675	1,531	1,400	1,377	1,258
	組合等負担等見込額		780	833	770	686	627
	退職手当負担見込額		7,569	7,566	7,271	7,115	7,099
	設立法人等の負債額等負担見込額		1	1	-	0	-
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		13,096	13,226	12,304	15,962	16,436
	充当可能特定歳入		7,494	8,041	8,270	8,762	8,229
	基準財政需要額算入見込額		53,512	54,950	55,134	55,549	54,051
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 2,828	3,419	3,909	1,791	▲ 849

## 分析欄

令和4年度は新たな地方債の借入額よりも、元金償還額が上回ったため、地方債現在高は前年度から約31億円の減となった。

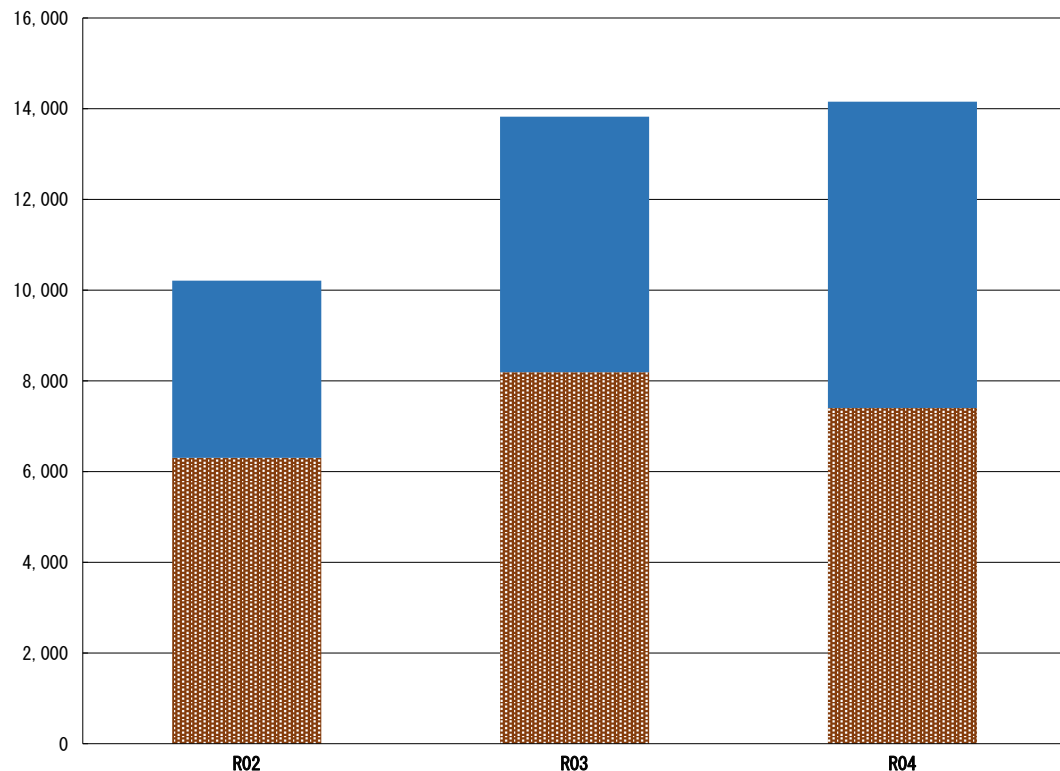
また、基金のうち、特に道路調整基金や施設整備基金について、取崩以上に積立を行ったことから、将来負担額に充当可能な充当可能基金が前年度と比較して、約5億円の増となったが、基準財政需要額算入見込額などが減となり、充当可能財源の合計が前年度と比較して約15億円減少した。

これらの理由により、充当可能財源が将来負担額を上回り、将来負担率の分子が約▲8億円となった。

※令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

（百万円）



（百万円）

区分	年度	R02	R03	R04
財政調整基金		6,302	8,191	7,403
減債基金		-	-	-
その他特定目的基金		3,908	5,633	6,752
施設整備基金		1,561	2,772	3,760
道路整備基金		406	507	807
マチごとエコタウン推進基金		394	729	627
中心市街地再開発整備基金		536	637	587
緑の基金		489	472	468
基金残高合計		10,210	13,824	14,155

令和4年度

埼玉県所沢市

## 基金全体

（増減理由）

令和4年度は、基金全体として、6,154百万円を積立て、5,822百万円を取崩し、331百万円の増となった。積立金については前年度比759百万円減となっており、減の理由としては前年度分の補助金等の返還金が増額となり、前年度繰越金のうち基金積立の原資となる金額の減に拠るものである。  
特定目的基金については、施設整備基金や道路整備基金が前年度繰越金分により積立を行ったため、基金残高の増要因となっている。

（今後の方針）

市街地再開発整備事業等、特定の事業を目的とした基金は中長期的には減少傾向が見込まれる。  
一方で、公共施設の長寿命化計画に基づく施設の適正化・長寿命化が予定されており、財源については施設整備基金の活用も想定されていることから、必要な財源を計画的に確保するため基金を有効に活用していきたい。

## 財政調整基金

（増減理由）

令和4年度は、普通交付税の追加交付や前年度繰越金により3,629百万円を積立て、財源調整として4,424百万円取崩したため、基金残高は788百万円減少した。

（今後の方針）

令和4年度は、年度末残高が788百万円減少することとなり、普通交付税の追加交付や前年度繰越金については後年度も継続的に見込める事由ではないことから、今後も年度間の財源調整や計画的な財政運営のため、適切に積立・取崩を行っていく。  
更には、災害や原油価格・物価高騰などに備えるため、本市においては標準財政規模の5%から10%となる約30億円から60億円程度の額は確保に努めていきたい。

## 減債基金

（増減理由）

設置していない。

（今後の方針）

設置の予定なし

## その他特定目的基金

（主な基金の用途）

- 施設整備基金：公用又は公共用に供する施設の修繕その他の整備事業
- 中心市街地再開発整備基金：市庁舎跡地等再開発事業をはじめとする中心市街地再開発整備事業
- 道路整備基金：道路整備事業

（主な増減理由）

- 施設整備基金：市民文化センター改修工事や短期修繕計画に基づく施設整備事業等の財源として815百万円を取り崩した一方、翌年度以降の施設整備事業のため前年度繰越金のうち1,802百万円を積み立てたため987百万円の増
- 中心市街地再開発整備基金：中心市街地整備事業等で50百万円取り崩した一方、積立は無しのため50百万円の減
- 道路整備基金：道路維持補修事業のため200百万円取り崩した一方、翌年度以降の道路整備事業のため500百万円積み立てたことにより300百万円の増

（今後の方針）

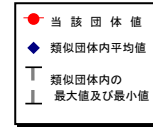
公共施設等の長寿命化計画に基づく施設改修等、各事業を円滑かつ計画的に実施していくため、それぞれの基金の設置目的に応じて基金を有効に活用していきたい。

# (12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

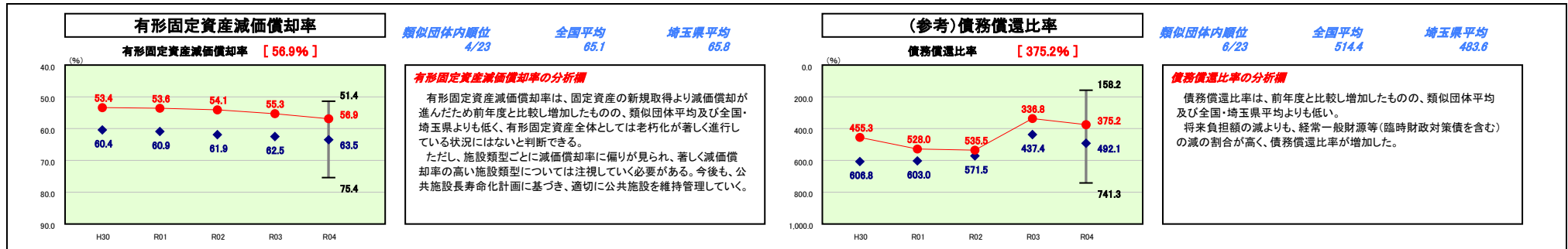
令和4年度

埼玉県所沢市

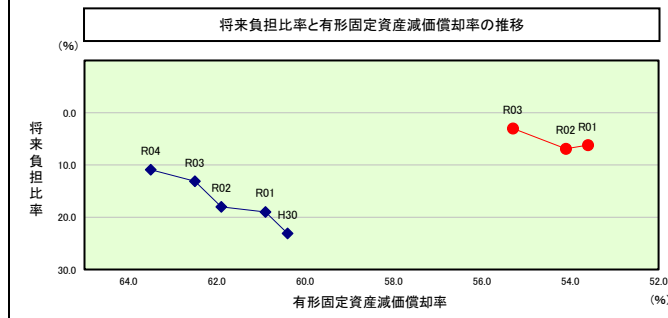
人口	344,070	人(R5.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	337,574	人(R5.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	72.11	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	4.7	%
歳入総額	128,036,480	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	116,895,054	千円	市町村類型	H30 特例市 R01 特例市 R02 特例市	
実質収支	9,988,614	千円	(年度毎)	R03 特例市 R04 特例市	
標準財政規模	62,801,138	千円			
地方債現在高	62,882,238	千円			



- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
- ※ 令和5年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費比率、将来負担比率のグラフを表記しない。
- ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



## 将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析



### 分析欄

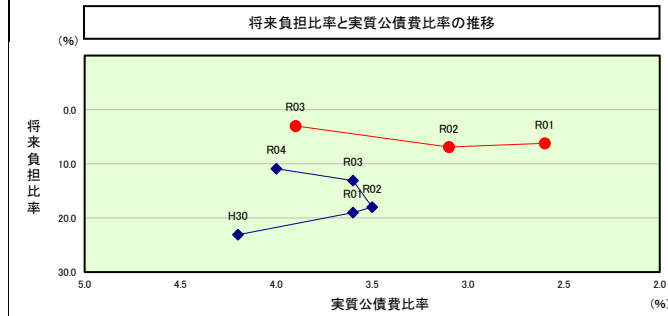
将来負担比率については、充当可能財源の減少もあつたが地方債残高の大幅な減少等により、実質的な将来負担額が減少したことから、低くなった。その結果、類似団体との比較では依然として低い水準を保っている。

また、有形固定資産減価償却率については上昇傾向が続き、特に「橋りょう・トンネル」に係る減価償却率は77.2%、「児童館」に係る減価償却率は77.0%と類似団体平均値より高い。今後も、公共施設長寿命化計画に基づき、将来負担の負担額を抑える取り組みと合わせ、更新及び統廃合に要する費用の財源として、計画的な基金・起債管理を進めていく。

### (参考)

		H30	R01	R02	R03	R04
当該団体値	将来負担比率	-	6.2	6.9	3.0	-
	有形固定資産減価償却率	53.4	53.6	54.1	55.3	56.9
類似団体内平均値	将来負担比率	23.1	19.0	18.0	13.1	10.9
	有形固定資産減価償却率	60.4	60.9	61.9	62.5	63.5

## 将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



### 分析欄

類似団体と比較して実質公債費比率は高く、将来負担比率は低い。実質公債費比率の増加の主な要因は、公営企業の地方債償還の財源に充てる繰入金等の増加や普通交付税額や臨時財政対策債発行可能額の減少等があげられる。今後数年についても、借入を伴う大規模な事業を予定しており、一定期間の間は地方債残高増による将来負担比率の上昇及び償還額増による実質公債費比率の上昇が予測される。世代間負担の公平性とのバランスに考慮し、引き続き将来を見据えた計画的な借り入れを行い、財政健全性の維持に努めていく。

### (参考)

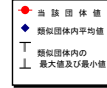
		H30	R01	R02	R03	R04
当該団体値	将来負担比率	-	6.2	6.9	3.0	-
	実質公債費比率	2.4	2.6	3.1	3.9	4.7
類似団体内平均値	将来負担比率	23.1	19.0	18.0	13.1	10.9
	実質公債費比率	4.2	3.6	3.5	3.6	4.0

# (13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

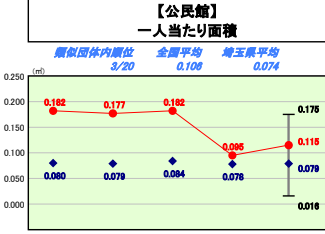
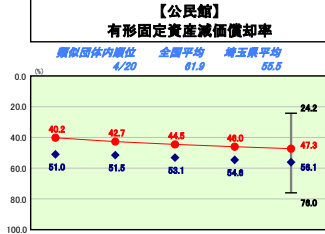
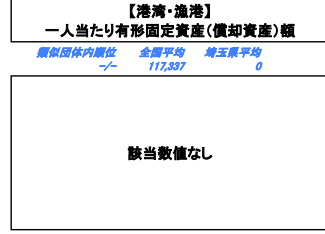
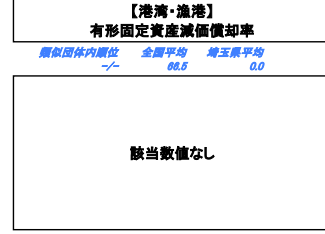
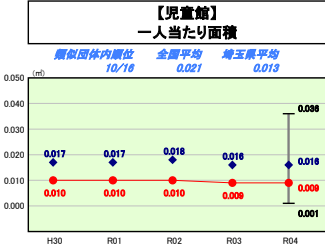
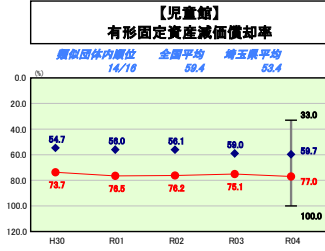
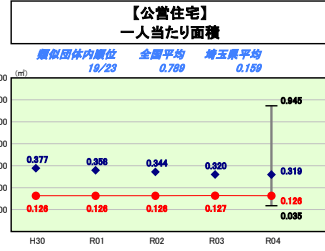
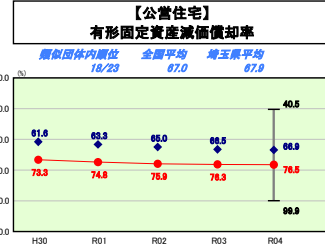
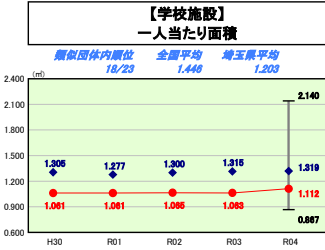
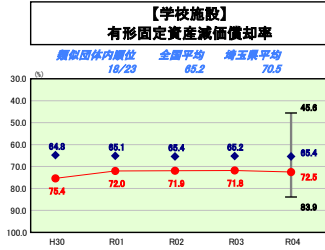
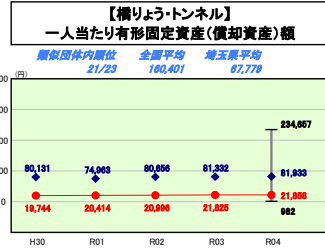
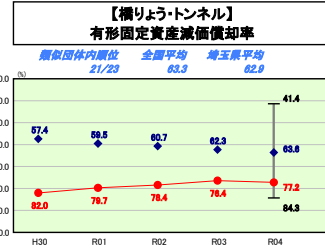
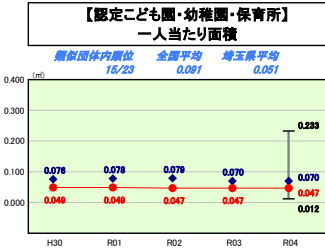
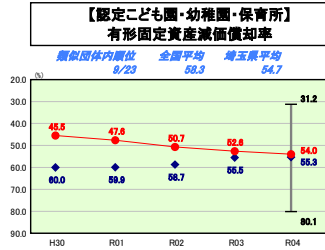
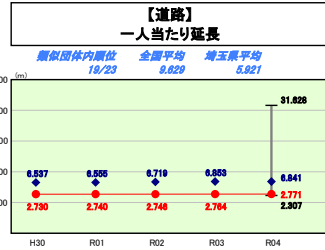
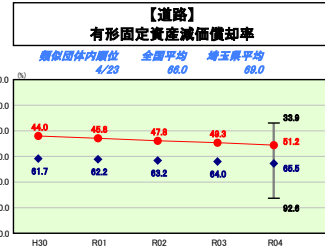
令和4年度

埼玉県所沢市

人口	344,070	人(仮.1.1調査)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	337,674	人(仮.1.1調査)	高齢実質赤字比率	-	%
面積	72.11	km <sup>2</sup>	実質公債比率	4.7	%
歳入総額	128,036,480	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	116,896,064	千円	市町村類型	H30 特別市 R01 特別市 R02 特別市	
実収収支	9,988,614	千円	(年度毎)	R03 特別市 R04 特別市	
標準財政規模	62,801,138	千円			
地方債現在高	62,662,236	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



## 施設情報の分析

令和4年度の有形固定資産減価償却率は56.9%となっており、類似団体内平均及び全国・埼玉県平均よりは低いものの、「学校施設」や「児童館」、「庁舎」等は70%を超えている。中でも学校教育系施設は公共施設全体の半数以上である52.1%を占めていることから、有形固定資産減価償却率が72.5%となる「学校施設」の老朽化の影響は大きいと言える。「学校施設」は、一人当たり面積が1,112㎡と類似団体内平均及び全国・埼玉県平均と比較しても少ないが、児童生徒数がピーク時と比較して大きく減少していること、施設規模が大きく多額の維持管理費用を要することが見込まれること等を総合的に勘案し、施設の集約化・複合化等を検討していく。  
 その他、類似団体と比較して特に有形固定資産減価償却率が高くなっている施設は、「橋りょう・トンネル」(77.2%)である。「橋りょう・トンネル」については、橋梁長寿命化計画に基づき、計画的に点検・診断を実施しており、この結果に基づき長寿命化工事を実施する。今後も継続的に点検を実施し、管理していく。

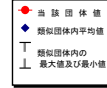


# (13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

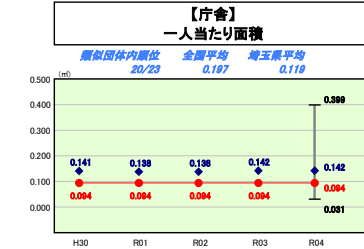
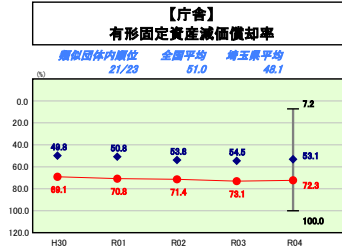
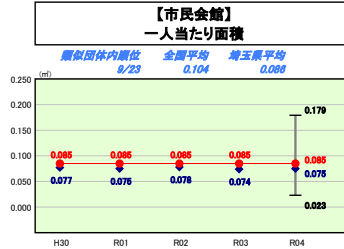
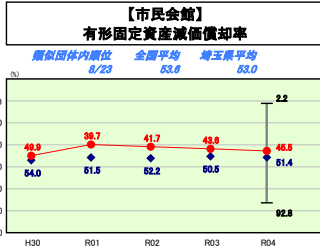
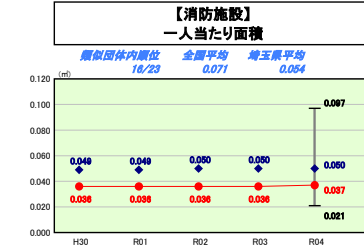
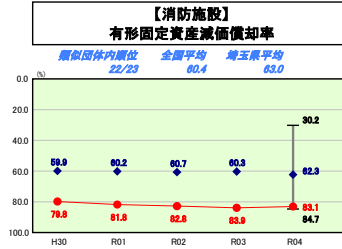
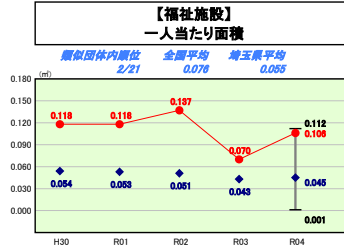
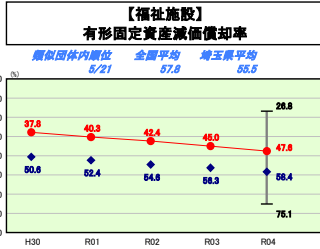
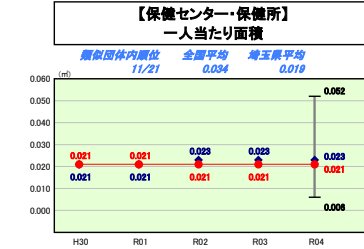
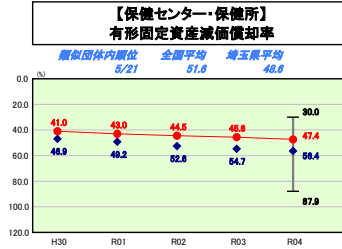
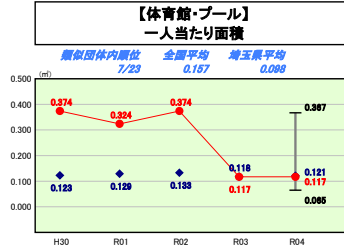
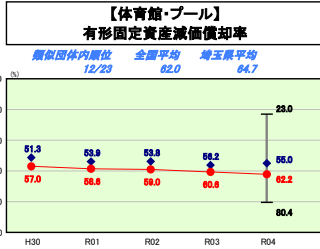
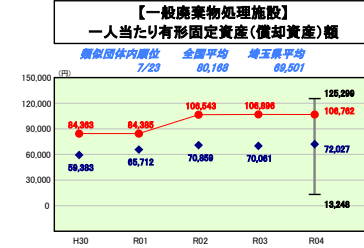
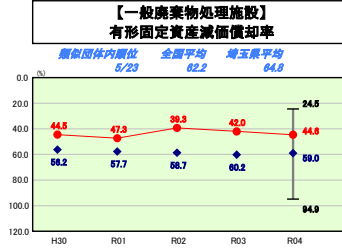
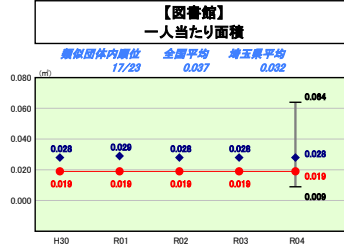
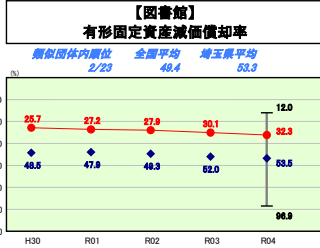
令和4年度

埼玉県所沢市

人口	344,070	人(仮.1.1調査)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	337,874	人(仮.1.1調査)	道庁実赤字比率	-	%
面積	72.11	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	4.7	%
歳入総額	128,036,480	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	116,896,064	千円	市町村類型	H30 特別市 R01 特別市 R02 特別市	
実質収支	9,988,614	千円	(年度毎)	R03 特別市 R04 特別市	
標準財政規模	62,801,188	千円			
地方債現在高	62,862,238	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和4年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



## 施設情報の分析

一方、有形固定資産減価償却率が低い施設は、「道路」、「図書館」、「一般廃棄物処理施設」、「福祉施設」等であり、この中で特に低いのが、「図書館」及び「一般廃棄物処理施設」である。「図書館」については、平成21年度に取得した資産の取得価額が図書館全体に占める割合が高く、比率を下げる要因となっている。また、「一般廃棄物処理施設」について、比率が低くなっている要因は、令和2年度に延命化工事をした「東部クリーンセンター」が令和2年度に算入されたことによるものである。

いずれにせよ、施設の老朽化や保全優先、総量の適正化などを考慮しながら、施設の長寿命化とライフサイクルコストの縮減を図っていく。